



三浦地域の魅力大作戦

Don't tell anyone!

地域資源情報を集めて 広めて繋がろう大作戦!

地域の魅力ハンドブック説明会

令和3年7月20日

於：三浦市民交流センター

三浦市地域資源情報プラットフォーム推進協議会



ハンドブック の狙い

皆さん市民一人一人に

身近な地域に隠されていたり、埋もれている魅力に気付いてもらって、どんどん地域を見直してほしいのです。そのために、ハンドブックを作りました

そして、身近な家族や友達にも教えてもらいたいのです。

そうしたら、地域には地元のことが大好きな人がどんどん増えます！



ハンドブック の狙い

そして、もし良かったら

皆さんが気づいた地域の魅力を市民交流センターのスタッフに教えてください。

センターのスタッフはその貴重な情報を集めて記録し活用していきます。

そうしたら、もっともっと三浦のことが好きな人が増えて、三浦がどんどん元気になっていくでしょう！

はじめに

平成28年～29年度において市民交流センター開設にあたり市民活動の皆さんにとって、市民交流センターが良い施設になるよう、市民から意見を聞くワークショップを全13回開催しました。

そこでわかったこととは？

わかったこと 1

やりたいこと
(目標) の共有

市民のやりたいことは何だ？

今ある地域資源（ヒト・モノ）を
活かした地域を元気にする活動

その目的は

市民に笑顔があふれること

わかったこと 2

仮説 1 : 「地域の魅力を最も伝えることができるのは
地域に暮らす市民だ」

三崎編 「三崎の日常を良さを知ってほしい」

- ・ 拠点が存在することでできること可能性の広がり
- ・ 人、まちなみ、食が楽しめるエリア = テーマパーク? !

初声編 「三浦の海と大地に親しんでほしい」

- ・ 三崎口徒歩圏でダイナミックな海と大地を堪能できる術を教えることができる
- ・ 食生産都市としての優位性を肌で感じるすることができる

わかったこと 3

仮説2：「各コミュニティの活動が活発化し相互に影響し合える環境が必要」

- ・自治会
- ・商店街
- ・農家、漁家

地縁型
コミュニティ

地域コミュニティの交流点

- ・シビックプライド形成
- ・活動（協働）人口

- ・サークル
- ・NPO、一社
- ・まちづくり団体

テーマ型
コミュニティ

来遊者
コミュニティ

- ・ファン
- ・趣味のリピーター
- ・観光客

市民交流センターの使命

市民活動支援・交流の促進

- 知識の習得のための講座 年3回開催
- 市民活動説明会 年2回程度開催
- 市民活動団体の交流のための催し 年2回
(市民活動デイ含む)
- (仮称) みうら宣伝会議 年1回以上の開催
- 地域の課題を解決するために市民・各種団体と行政等が協働を模索するためのマッチングイベント

市民交流センターの使命

地域資源情報の受発信

地域資源とは、小網代の森に代表される自然景観や地場産の生産物、各種工芸、工業などから生産される製品類や、郷土料理などの食、土地の歴史や伝承されている郷土芸能、それらを支える地域の人々などの人文資源等を含んだ地域のPRに貢献できる事物（モノやコト）のそれぞれを指します。これらの情報がワンストップで利用できるよう情報の収集及び提供を行う。

ア 地域資源等に関する情報の収集及び提供

イ 地域資源を活用した体験プログラムの実施支援

ウ 情報受発信に関する意見・アイデアを収集する場の開催

市民交流センターの使命

コロナ禍の今だから

リアルな交流はできない！

**地域資源情報＝地域の魅力情報の
交流で豊かなまちに！**

本日の内容

- コロナ禍での新生活
- 主人公は皆さん！
- 地域の魅力って何ですか？
- 意外にも人気があること
- 地域メディアを賑やかそう！
- やっていきましょう！

コロナ禍での新生活

コロナウィルスで 何かが変わった

(本当、いろいろ変わりましたわー、信じられないくらい、でも信じなくてはいけないゲンジツですよね)

多くの人々が初めて 外出自粛を経験

(戦時中以来？外出るだけで怖かったですよ～
あの頃。

あ、でも今も変わらないんですよね！何も。)

外国にも隣の県にも
いけない期間を過ごし
た。

(今も外国には自由に行けません。)

すなわち
ステイホームした

(流行語大賞決定？ステイホームって命令形ですよね。)

時間が余って
自分の家を片付けた。

(みんなそうになりましたよね。やったわー)

いろいろな思い出と
再会した。

(キラーン° + ✨ (°▽°) ✨° 思い出って貴重な
地域資源になりうるかも！これもらいます！)

近所を散歩した。

(あ、したした、しました。普段いかない道とか歩いた)

近所の良いところを
再発見した。

(ジャジャーン！° + ✧ ♪(°▽°) ✧+° これこれ地
域資源！これももらいます！)

この時期、身近な
良いところを
発見しまくっています！

(そうなんです、そうなんです。みんなしまくっているんですよ。これ忘却の彼方に行っちゃっていいんでしょうか？)

私たちは、地域の良い所
＝地域資源の情報を集め
発信する仲間を求めていました。

（SINCE2019市民交流センターで作戦練ってました！）

本当の地域の良い所や
地域の美味しさ、
地域のヒストリーは
そこに暮らしてきた先輩方
が一番よく知っている。

(そうそう、先輩にはかないませんよーいろいろ教えてほしいんですって！)

時間も余裕が生まれてきた
今こそ、地域の良いところを
発信するためお手伝いして欲しい！

(ぜひ、ぜひ)

地域資源の情報は
市民交流センターの
スタッフが活用して
発信していきます！

(よーするにサポート万全です！)

主人公は皆さん！

この事業の主人公は
65歳以上の
リタイヤ世代の皆さんです！

主人公は皆さん！

なぜ？

- 経験、知識、記憶、感性が豊かだ
- 地域の繋がり、地域の仲間がいる
- 時間的な余裕がある

地域の魅力って 何ですか？

辞書で確認してみました！（コトバンクから引用）

ち-いき・・ちキ 【地域】

土地の区域。区画された、ある範囲の土地。

（一般には地表上の広狭の広がりをもつ特定の部分をさすことばであり、地方あるいは地区などと同義に用いられる。）

み-りよく 【魅力】

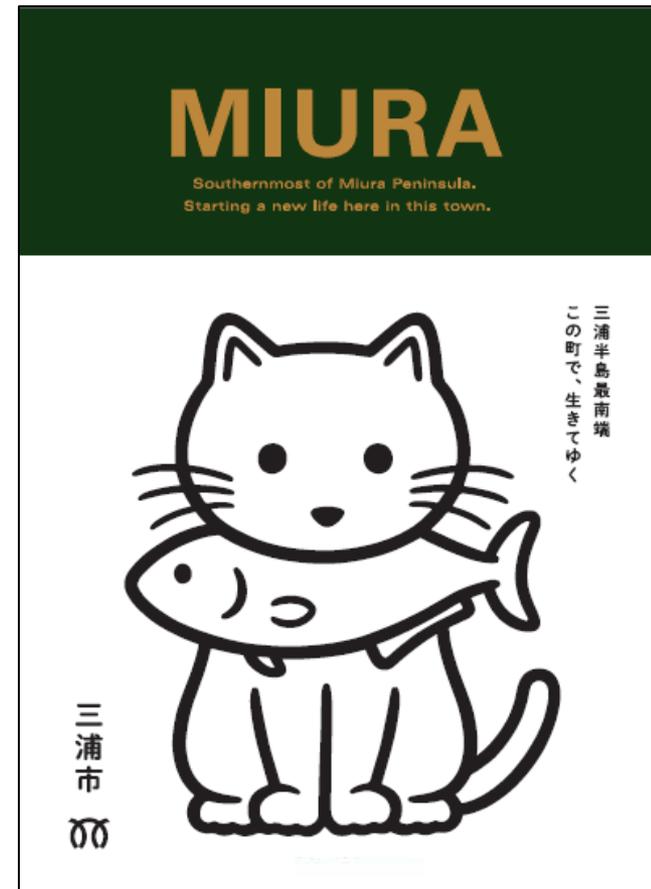
人の心をひきつけ夢中にさせる力

辞書から、自分たちの住む土地に有る、人の心をひきつけ夢中にさせる力。のこと。

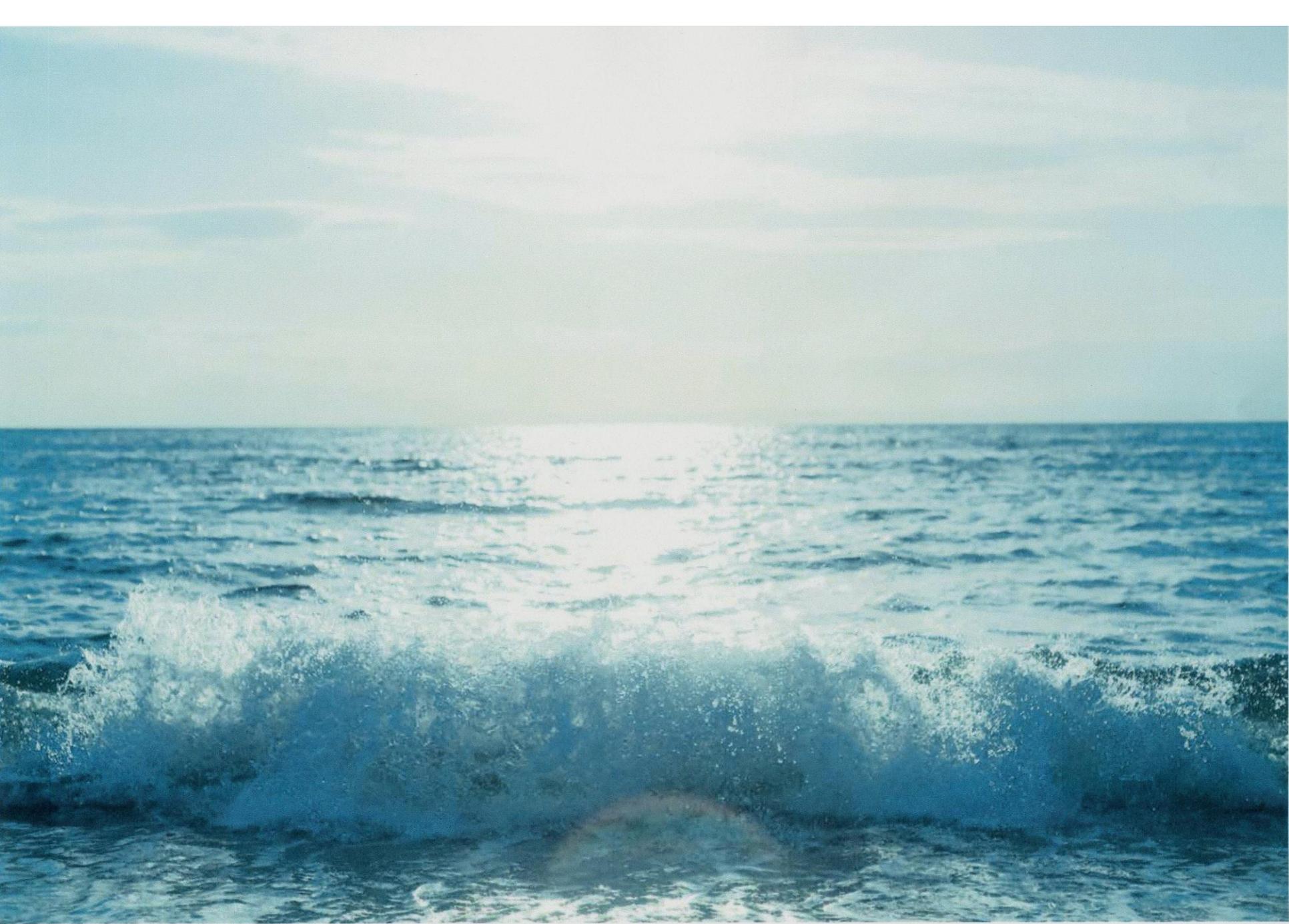
地域の魅力って何ですか？

例えば、三浦市が作った移住冊子では？

三浦市が令和3年3月に発効した「MIURA」が話題に！







地域の魅力って何ですか？

ズバリ！

何気ない日常にある！

昔ながらの地元の暮ら

しに隠れている！

地域の魅力って何ですか？

ハンドブックを
めくってみましょう

この本の使い方は？

HOW TO USE
THIS HANDBOOK

使い方
01

身近な魅力の見つけ方を知る！ (P4~P13)

5つのテーマごとの専門家=アドバイザーが地域の魅力を探るフィールドワークを行いました。それぞれがお薦めする地域の魅力について一緒に学びましょう！

- 01 地域資源とコミュニティデザイン | 日高仁さん
(関東学院大学 人間共生学部 共生デザイン学科 准教授)
- 02 景観とまちなみの地域資源 | 鈴木伸治さん
(横浜市立大学 国際教養学部 都市学系 教授)
- 03 地域に根付く暮らしの文化 | 権原晶子さん
(地域プランナー/株式会社まちあかり舎・あたりアリス株式会社 代表取締役)
- 04 地域の生物資源から探る地域の魅力 | 山田和彦さん
(観音崎自然博物館 学芸部長)
- 05 地域資源を集める発信することの意義 | 牧瀬 穂さん
(関東学院大学 法学部 地域創生学科 准教授)

使い方
02

地域で活動する事例を知る！ (P4~P13)

各テーマごとに市内で活動する先輩たちを紹介する「Local Action File」。各ページに掲載。

- 01 合同会社 MISAKI STAYLE
- 02 三浦市観光ボランティアガイド協会
- 03 農業/画家 | 三上幸一さん
- 04 朗読サークル ひばりの会
- 05 ふるさとのみつば会
- 06 植物記者 | 金子昇さん
- 07 三浦竹友の会
- 08 三浦の自然を学ぶ会
- 09 地域記録者 | 長島文夫さん
- 10 総合情報マガジン gooone

使い方
03

実際に参加する方法を知る！ (P14~P15)

事業に参加する方法や各種スキルアッププログラム、活動の始め方など。まずはメモから始めましょう！ サポート体制も万全ですよ。

地域は
あなたを
待っています

三浦市に長く住んでいる方も、最近引越された方も誰でもOK、65歳以上で、特にリタイアした方たちは時間に余裕がありませんか？自分のペースでできる地域での活動を始めましょう！お一人でもお友達でも、専門のサポーターがあなたの活動をお手伝いします。始め方は簡単です。あなたが好きだと思ふ地域

のことを教えてください。昔の記憶や好きなお店のこと、我が家に伝わる干物の作り方、近くの風景や近所の名物おじさんのお話、もちろん写真やイラストなども大歓迎！また、カメラや動画、インターネット、スマートフォンなど各種講座に参加してみませんか？わずかも、小さくても貴重な情報です。

こんな情報つまらない？そんなことではありません。一つ一つが集まることによって地域の魅力がどんどん大きくなっていきます。集まった情報はどんどん活用していきます。活用方法も学べますよ！地域はあなたの踏み出す一歩目をお待ちしています。楽しく活動を始めましょう！

身近な 地域の 魅力 の世界へ！

地域の魅力って何？

私たちの暮らしているまちの良さってなんですか？例えばあなたが遠くに住むお友達に自分のまちをどのように紹介しますか？空気がきれい、空が広い、海が見渡せる、夕日が好きななど枚挙にいとまがないほど。しかも、それぞれ個人個人が思う好きなところや取っておきのいいところが違うはず。地域の魅力は皆さんの心の中にあるのです。暮らしの中を見渡せばもっともっとありますよね。我が家のレシビ、角の家の花壇がすてき、あの桜が満開な時は最高！などなど、あなたしか知らない魅力を教えてください。集めることで地域の大きな魅力に育ちます。

地域の魅力が地域を救う！

三浦市は神奈川県の中で唯一「消滅可能性都市」であるとされました。消滅可能性都市とは子どもを産み育てる若者がいなくなってしまうことを危惧するものです。平成27年度に三浦市が実施した調査では市内の若年層（16~39歳）のなんと4人に1人は将来市外で暮らすことを考えています。一方、令和2年6月の国の調査では東京23区に住む20歳代の若年層の35.4%が地方移住に関心が高まっていると答えられています。若い世代の人たちにインターネットでは検索できない三浦市の本当の魅力を伝えることができたらもっと三浦市が好きなになるはず！地域を救う鍵になります！

コロナの今だからこそ！

令和2年の年明けから始まった新型コロナウイルス感染症の脅威は今まで経験したことのない生活の変化をもたらしました。飛沫感染を防ぐための三密の回避を始めさまざまな暮らし方の変化を余儀なくされ、新しい生活様式として皆が協力しながら地域で暮らしています。ステイホームも耳慣れない言葉でしたが外出自粛の中、少しでも時間を無駄にしないように各家庭でステイホームの時間を工夫し楽しんでください。その中で、家庭や地域を見直す機会が生まれました。久しぶりに家を片付けた。遠くに行けないから近所を散歩した。そこには日々の暮らしで忘れていた大事なものの身近な景色がいとおしく感じる瞬間がありました。そう、身の回りの良さを再発見したのです。ぜひ、その再発見した大事な、いとおしいモノ・コトのお話を教えてください。コロナ禍から見つけることができたのですから。

TIPS 01 地域資源と コミュニティデザイン

地域に埋もれた魅力を掘り起こし、発信するためには？
他地域の事例とともにご紹介します。



相模湾から
富士山を望む
ベストポイント

電動自転車を利用
1日で緑々な自然を
味わえた

努力を
惜しまない姿が
かっこよかった

おしゃれな
手仕事のお土産
見つけた!

この景色超やばい!
写真撮らなきゃ!

農家さんの
直売所巡りも
楽しいです

時間がゆっくり
流れている
焦燥感を感じない

城ヶ島馬の背
淵門は自然美の
妙が楽しめる

もったこの
まちなみの良さを
広めたい!

晴れた日なら
富士山とヨット
写真スポット

カニや鳥など
約2,000種の
生き物が生息する

周りに何もなくて
サンセットの海は
絶景

**地域に埋もれている魅力を
発信する仕組み**

そのために力を入れるべきこと。一つは、現地ガイド、情報発信をするスタッフが活躍する環境づくり。すでにさまざまななかたちで地域の方々が活躍されていますが、例えばそれに加えて、総務省の地域おこし協力隊などの仕組みを活用し、若いスタッフを1、2名雇用し、地域の情報発信を継続して行っていく、ガイドツアーの開催をするなどができそうです。

根強い三浦のファンをつくるためには、マグロを食べてすぐに帰るだけでなくでは終わらせない。規模は小さくても中身の濃いガイドツアーの開催が重要な気がします。事例としては、長崎県の上五島にある小値賀島の「小値賀アイランドツーリズム」(※1)の活動などが参考になると思います。

もう一つは、地域の人々のさまざまな視点をつき上げるメディアを運



※1 長崎県小値賀
アイランドツーリズム
「おちか島旅」
https://ojikajima.jp



※2 神奈川県逗子市「瓦版」
https://www.city.zushi.
kanagawa.jp/syokan/machi/
kawara.html

冊子「MISAKI」
地域の魅力を発見するために学生たちが3つのチームに分かれ三浦を巡るフィールドワークしました。彼らに映った魅力を冊子「MISAKI」にまとめた。



https://www.mieuracc.org/
地域資源情報 /

営していくこと。これも地道な活動ですが、地域の人々しか知らない情報を取り上げ、発信し続ける仕組みがあると良いと思います。ここで逗子市で行っている「瓦版」(※2)の事例をご紹介します。これは、市民のスケッチと、地域にまつわるエッセイをA4の印刷物として発行するという、三浦市でもすぐにできそうな活動です。月に1回から多くても2回発行し、逗子市ですすでに10年近く継続、70号が発行されています。50号が発行された記念に、小さな冊子にまとめて出版されました。読んでいて楽しいし、地域に対する住民の愛情がこれほどよく伝わってくるメディアも少ないのではないかと思います。読むたびにジワッと温かい気持ちになります。

LOCAL ACTION FILE 01 合同会社 MISAKI STAYLE

ミサキスタイルは、三浦の魅力的な空き家が壊されていくことに危機感を持った5名で設立した合同会社です。使われていない空き家を移住・創業希望者とマッチングすることで、より多く空き家が活用されるよう相談・支援を行っています。移住相談の際には地域の魅力を



伝えています。実は移住者さんの方が三浦の魅力を見つけるのが上手く、教えてもらうことも多いです。また、朝めし屋という拠点を作ったことで移住者と地元の人との交流の場にもなっています。

な三浦の魅力に気付くためには、現地の詳細な情報や、何よりも人によるガイドがとても重要な気がします。まちの様子やそこに暮らす人々に直接に触れ、そこにあるさまざまな背景やストーリーを知ること、三浦の魅力に段々気づく。そんな仕組みがつけられると良いですね。

三浦には観光ガイドに載るような観光地は少ないかもしれませんが、それでいいです。簡単には発見しにくい三浦の魅力。それは足しげく通ううちに段々と虜になるような奥深い魅力です。こんな

- 1 三浦の農地や海辺の変化に富んだ地形が織りなす環境の魅力
- 2 三浦の下町のちよっと寂れた風景やそこで生きる人々の魅力
- 3 移住者が行なっている新しい活動や店舗の魅力
- 4 三浦ならではの食の魅力
- 5 三浦のものづくり職人や農業者の魅力

ATTENDAR



日高仁さん

関東学院大学 人間共生学部
共生デザイン学科 准教授

専門は、建築、コミュニティデザイン。さまざまな地方都市のコミュニティ再生プロジェクトを手掛けています。自転車をこよなく愛しています。

三浦を初めて訪れた
若者の第一印象とは？

地域の魅力を発見するために、学生によるフィールドワークを行い、映像、雑誌の形式でまとめました。コロナ禍の中、完全な取材不足ですが、三浦を初めて訪れた若者たちの第一印象を知るには良い資料になっているかもしれません。

彼らが興味を持ったのは、大きく5つの三浦の魅力(左記)です。

景観とまちなみの 地域資源

普段から見慣れているまちなみ、その裏側に隠されたストーリーに触れることで新たな魅力と出会うことができます。



まちを読み解きながら 歩こう！

2月8日(月)、人呼んで「まち歩き」の達人「鈴木さん」と市民記者を交えて三崎下町をまち歩きしながら「景観とまちなみ」をヒントに地域の魅力を探りました。

鈴木さん まち歩きの前にワンポイントアドバイスです。私たちが日常的に見ているまちなみはさまざまな要素が重なって成り立っています。まず、長い間積み重ねてきた歴史があります。また、過去から現在までに人間が暮らしに合わせて地域を開発したり造成したりを繰り返してきて、自然や地形が大きく変わっている場所もあります。例えば「この場

所はその昔古戦場だった」と聞くと、途端にイメージがわいてきますよね。そういった要素を取り上げてまちの魅力を紹介しているテレビ番組「フラタモリ」があり、非常に人気がありますね。現在は、商売をしている店がただ並んでいるような場所であっても、昔は街通が通っていた！というところもあります。目に見えるものだけではなく目に見えないものも考えながら歩く面白くなりますよ。

市民記者 テレビ番組「フラタモリ」を楽しんで観ていますが、若い人たちも歴史があるだけの古いまちなみなどに関心を持つのでしょうか？
鈴木さん あの番組が長期にわたって放映されていることから幅広い世代から受け入れられていると思います

気に入った ディテールを探そう

よ。私のゼミ生は三崎の古いまちなみを取材し冊子にまとめる活動に積極的に参加し、楽しみながらまちを学んでいます。では、実際にまちを歩いてみましょう。

そして一歩は、三崎東岡バス停付近から三崎港・海南南通り・銀座通り商店街1日の出地区を目指しました。
市民記者 三崎のベスト景観はどこでしょうか？

鈴木さん なかなか決めることができません。景観は観る人によって印象が異なります。寂れたまちに映る人、趣がある人、ある人には懐かしく思う人もいます。

鈴木さん まちなみを構成する建物に注目してみよう。職人が技術を注いだディテール(細部)に萌えたいですね。今の建築物に見られない細部の装飾などがとても興味深いです。

市民記者 上を向いて歩いてみると看板建築など普段見えないところが見えて新鮮で面白いですね。また、路地奥に昔の三崎のまちなみを見たような気がして、ちよつと得した感じがしました。以前、三崎に面白い建物がたくさん残っているって聞き、驚



三浦市観光ボランティア ガイド協会

三浦の観光案内、イベント支援等を通して、三浦市の貴重な自然・歴史・文化遺産等の魅力を来訪者の方々に紹介しています。



農業/画家 三上幸一さん

古代ローマ宮殿を思い起こさせる「看板建築」の建物、重厚な瓦屋根の葺、謎いっぽい独特な雰囲気魅せられ、農業に従事する傍ら、三崎のまちなみをスケッチしています。



鈴木伸治さん

横浜市立大学 国際教養学部
都市学 教授

専門は、都市計画・都市デザイン・歴史的環境保全であり、現在三浦市景観審議会委員長としてもご活躍されています。横浜市の「黄金町バザール」など地域の取組みに参画し実践型の研究者です。



くほど変わっている建物が立ち並ぶ姿を思わず絵に描きました。その際に、感じた言葉を書き記したのですが、その文書を読むとその時の気持ちがよくあがります。

鈴木さん まちの歴史を振り返ると、一定期間栄えたまちが、何かの理由で活気がなくなってしまうことがありますが、三崎は繁栄を極めたころのまちなみがそのまま残っています。その頃の看板建築や趣のある建物を数多く見ることが出来ます。背景を把握してまちを見ることは大事な視点ですね。石造の葺など貴重な建物も取り壊されてしまうことも少なくないです。一方でカフェなどに転用して生まれ変わる例も増えてきています。空き家と利用希望者のマッチングや改修の提案などを市民レベルで行うことでまちなみの保全に繋がっている事例が増えてきていますね。

まち歩き の極意とは？

鈴木さん 「目に見えるものは氷山の一角のごとし」、表面に過ぎません。その水面下にある背景や歴史、暮らしに思いを馳せるとどんどん面白くなります。物語を紡いでいく

まち歩きの 注目ポイント！

- まちのランドマーク、神社やお寺の位置と海・丘陵の関係をよく観察しよう！
地域全体の土地利用の歴史が見えてくるかも。
- 建物などの素材と建坪(「百」メートル)単位「間」などにも注目しよう！
時代背景がわかります。
- 三崎のまちの特徴として、軒先に産し台がある家屋をよく見かけますね！なぜでしょうか？
このような「まちの特徴」を探してみよう！
- まちの古地図を見てみよう！
地形や交通の変化がわかりますよ！

ように、今あるお店やお祭りなどの営みの物語を探ってみましょう。そういった視点で見えていくと、いつものまちが違ったものに映ってくるはずですよ。まちなみ写真やスケッチなど、あなただけのお気に入りを見つけて、ぜひ、皆さんに紹介してください。楽しんでまちの魅力を発見してくださいね！

朗読サークル ひばりの会

LOCAL ACTION
FILE
04



朗読の勉強会、朗読会、子供向けのおはなし会、「社協みうら」の音訳、高齢者施設や保育園でのおはなし会、朗読CDの配布、方言CDの作製などのボランティア活動を行っています。令和2年5月に「二町谷の方言」という冊子と音声化を記録したCD作成を行いました。この作業を通じて、「なつかしい」「両親のことを思い出します。」など、市内、市外の多く方から温かい反応が寄せられました。特におはなし会では、今後も若い観御さん、お子さんたちと一緒に楽しんでいきたいです。

ふるさとのみつば会

LOCAL ACTION
FILE
05



神奈川県では農家や漁家に受け継がれてきた生活技術を持ち、伝承している者を「ふるさとの生活技術指導士」として認定を行っており、三浦市、横須賀市、葉山町のふるさとの生活技術指導士が連携した会が「ふるさとのみつば会」です。「三浦大根」をはじめとする地域でとれる産物を利用して調理技術、加工技術、行事食を地域へ広めていく活動を行っています。昔から伝えられている調理加工法や、今風に喜ばれる味をこれからも伝えていきます。ぜひ、郷土の食を見直しましょう！



三浦の丘に連なる畑、海の向こうに輝く富士山、月や星空の美しさ、新鮮な野菜や魚の美味しさは格別！です。

「近所のみなさんも温かく、父母も私たちも大変お世話になりました。今、兄と私が育った家と畑を、「みんなの実家」として、三浦の人の畑の温かさを体験できる場所にしてやっています。都会には意外と「ふるさどがない」方も多く、三浦の家を、家族や友人と折々過ごす、しばらく住む、菜園として通うなど、ご自分の実家のように親しめる場にできたらと考えました。来る方が地域の住民民のようになり、いざという時にも助け合える人の輪が広がれば本望です。

どのまちでも長く住んでいる方には、身近な環境はあたりまえになりがちです。三浦は首都圏にありながら海、漁業、畑の自然の幸に恵まれ、農業や漁業を中心とした美しい風景の中に、太古から現代までの暮らしが続く、素晴らしいまちです。歴史ある寺社やおまつり、名産品もあります。三浦に長く住む方と訪れる方、移住してくる家族や若者と一緒には、さまざまな人の目で「三浦の魅力」「新しい未来につながる」と楽しんでいます。



みんなの実家が目指すもの



「三浦大根」の名産地、初声町高田坊で育ちました。実家は、相模湾まで見渡せる小高い丘の上、夏はカボチャ、冬は一面の大根畑とキャベツ畑にほぼ360度囲まれています。小さい頃は、日の出から日の入りまでさきぎるもののない世界で、近所の子たちと、虫や樹や花と遊ぶのが何より楽しいことでした。二十歳の頃に家を出て、東京に住んでいっそう気がつきました。三浦の丘に連なる畑、海の向こうに輝く富士山、月や星空の美しさ、新鮮な野菜や魚の美味しさは格別！です。

三浦大根の旨さを伝える吉田さん

三浦のあたたかさ、美しさ、おいしさ、みんなのふるさとのように、すべて方々へ。地元出身者だから伝えられる魅力があります。

地域に根付く 暮らしの文化

TIPS
03

椎原晶子さん

地域プランナー/
株式会社まちあかり会・あたりアルス株式会社
代表取締役

専門は、建築物と町並み・コミュニティの再生、アートとまちづくりなど、東京芸大など、大学で講師を務める傍ら、NPO法人たいとう歴史都市研究会でまちの歴史を守り伝える活動がされています。高田坊のご出身です。



まちの「いいとこ探し」

身近な場所にもさまざまな生き物が

三浦半島周辺は世界でも有数の海洋生物が豊富な地域です。これらの多種多様な生物は、沿岸域の海中や磯など身近に観察することができる種類の生物もたくさんもあるそうです。山田さんの活動を通じて身近な地域資源の魅力を探ってみましょう。山田さんは三崎魚市場に水揚げされる魚の季節変化の調査を日常的に行っています。種類の変化から、三浦を取り巻く海の環境がどう変わってきているのかを研究しているそうです。



12月13日(日)午前5時、山田さんは三崎魚市場で既に始まっていた沿岸漁獲物の水揚げ作業の調査中。作業をする漁協の皆さんは手際よく、魚別に個体の大きさを仕分けしていきます。時折、出荷する魚とは別にカゴ

に入れられる魚たちが見られます。

山田さんはそのカゴからめぼしい魚を見つけては、自分の採取用のバケツへと選別します。何を分けているのでしょうか。

「私の研究用に出荷されない魚から選んで提供を受けます。また、この後、朝市会場で展示するための魚も選別します(山田さん)」

朝市会場で展示!? そう、実は山田さんは三崎朝市の会場で不定期に開催されている「ダンポール水族館」の仕掛人の一人でもあります。

「ダンポール水族館」は三崎朝市の名物企画で、三崎の飲食店「くろば亭」とのコラボレーションから生まれました。近海に生息する多様な生物を紹介する機会として朝市という場を借り、特に流通に乗らない魚たちにスポットを当てます。ダンポールを地面に広げ、キャンパスに見立てて、魚をランダムに配置します。この作業は「くろば亭」の拓哉さんと娘さんが担当します。配置を始めたとき楽しみにしていた来場客が少しずつ周囲を取り囲むように集まってきます。配置された魚の脇に

波打ち際の漂着物を観察してみよう

三浦でできる生物観察の方法はたくさんあります。釣り、ダイビング、バードウォッチング、植物観察、地層観察、昆虫観察など。特に山田さんのお薦めは砂浜を歩き漂着物を観察する「ビーチコミング」。

「よく観察する」と波打ち際に打ち寄せられたモノたちが帯状に分布しているのがわかります。大きめの貝殻や海藻などがある場所、数ミリ単位の巻貝など細かな漂着物がある場所など思わず座り込んで観察したくなりますよ! 貝殻は持ち帰って自宅でも保管できますから初めての生

物調査にぴったりです。その際には漂着物の名前や生息域を調べ、たどり着いた経路などを推理すると調べの楽しさが増しますね。カメラやスマートフォンで写真を撮ると、いつでもどこでも、何を、誰がなどの記録が残ります。資料性も高まりますよ。その際は、被写体の全体、特徴的な部分、向きを変えるなど数枚撮っておくとよいと思います(山田さん)。

最後に、観察するときの注意点をお聞きしました。

「身を守る帽子、靴、手袋などの用意はもちろんですが、場を荒らす、

破壊する、むやみに採取することはもちろん厳禁です。足を踏み入れた場所を元に戻すことも重要です。例えば、海の中に転がっている石の表面には太陽を受けて生活する生物が付着し、底面には太陽光を嫌う生物が生息しています。これらの生物の多くが石に張り付いているため動くことができない。心無い観察者が石をめくって裏表をひっくり返したまま放置するとこれらの生物は死滅してしまふ。必ず、元に戻すようにしてください。そして、撮った記録をみんなで見られるようになる楽しさが広がりますよ(山田さん)」。

地域の生物資源から探る地域の魅力



海に囲まれた三浦市では、身近な場所でも生き物の多様性を垣間見ることができます。



山田和彦さん
観音崎自然博物館
学芸部長

専門は、魚類、海洋生物。可能な限り海に潜り、生態調査を継続して行っています。また、三崎水産物地方卸売市場へ日々向うき沿岸漁獲物水揚げの状況を調査されています。

山田さんは手際よく名前を記していきます。並べられた魚たちは個性さまざまで、2mを超えるような細長い「ダイナンウミヘビ」、小型だがグロテスクな印象の「シビレイ」、サメでも見るからに可愛い「ネコザメ」と思うと地味ながら「マアジ」と「マルアジ」が対比されていたり、見所満載な展示です。名前を書き込むと「やっぱり!」とか「あっそういいう名前なんだ!」などさまざまな歓声が上がります。子供たちも個体に触ったり、熱心に観察したり、寒空でも熱い空間となる名物企画。

「もし、興味を持っていただけたら身の回りの生き物に目を向けて、身近な生物観察に挑戦してください(山田さん)」。

LOCAL ACTION
FILE 06

植物記者 金子昇さん



三浦の各地域を訪れて植物野外観察会を行い、そこに生育する植物の名前の由来、エピソード、文学や芸術にまつわる話、地層や地史、自然との共生の大切さなどを解説しています。



LOCAL ACTION
FILE 07

三浦竹友会の

竹林の整備保全を通して三浦半島の美しい自然を残そうと、三浦市内などの竹林を手入れする傍ら、市民センター・小学校・町内会などで竹細工指導を行い、竹の魅力を広げています。

LOCAL ACTION
FILE 08

三浦の自然を学ぶ会

黒崎の鼻や小松ヶ池公園の定例清掃、池下の田んぼの再生・維持活動をしています。何もしていないと劣化していく美しい三浦の自然を次の世代へ伝えるために活動しています。



意外に人気があること

事例紹介

- 食に関連すること
- 人に関連すること
- 景色・景観に関連すること

実に何気ないことが好き！

昔の暮らし

身近な
アート・文化

とっておきの
メニューレシピ

富士山の写真

海辺の景色

季節の花たち

まちの七不思議

我が家のお宝

我が家のお雑煮

自分で
描いたもの

新婚旅行の
エピソード

漬物つくって
ますよ

戦争体験

マイカーの写真

マグロの食べ方

子どもの頃の
遊び

自分で
作ったもの

流行について

わたしの
干物の作り方

わたしの好きな
まちなみ

創業秘話

潜水レポート

まちの歴史

私の先生の話

自然の中の
子どもたち

祭りの話

地域の
植物のこと

ドライブの
思い出

マイコレクション
の話

マグロの
みりん干し作り方

農業・漁業・
産業の苦労話

昔の道具と
使い方

磯の生物・
昆虫博士

あの店の
あのメニュー

石碑・道祖神

見たテレビ・
映画の話



皆さまの身近なお話を、
ぜひお聞かせください!!

地域メディアを賑やかそう！

地域メディアとは、地域に関するいろいろな媒体に載る情報の塊を指します。

それを賑やかにしたい！

それはなぜ？

地域メディアを賑やかそう！

かながわ 県 のたより
 5月号 | No.794
 〒221-8501 神奈川県横浜市中区本町1-1-1 (横浜駅西口)
 〒221-8501 神奈川県横浜市中区本町1-1-1 (横浜駅西口)

マスク飲食という日常

最近これまで、感染防止対策を見える化する「感染防止対策取組書」のシステムを導入し、現在約55,000店舗に無料貸出いただくなど、飲食店の皆さんとともに、その対策に取り組んでまいりました。

今度は、その取り組みをさらに発展させ、「マスク飲食実態」の検証制度を導入します。また、新しい時代の感染割合が高まっていることを踏まえ、SNSを採用した普及啓発にも取り組めます。

「マスク飲食」を暮らしの日常に、飲食時には「マスク飲食」の態度を定めてまいります。

マスク飲食をはじめとする、感染防止期へのご協力ありがとうございます。コロナ禍の中、お察しに安心してご利用いただけるよう、皆さまのご利用、心よりお待ちしております。

ジョアワン高専の副学長 渡辺 友香 氏

新たな「食のマナー」を、神奈川から。

県が最初に「マスク飲食」を提唱した際、その背景には「マスクが着用できない状況下で、マスク飲食を推奨する必要がある」という思いがありました。しかし、マスクが着用できない状況下で、マスク飲食を推奨する必要があるという思いがありました。

神奈川県知事 長尾龍洋

〒221-8501 神奈川県横浜市中区本町1-1-1 (横浜駅西口)

三津市民

6月号 | No.787

暮らしが楽しいまちの暮らし vol.6 「三津の早春」



〒221-8501 神奈川県横浜市中区本町1-1-1 (横浜駅西口)

広報紙

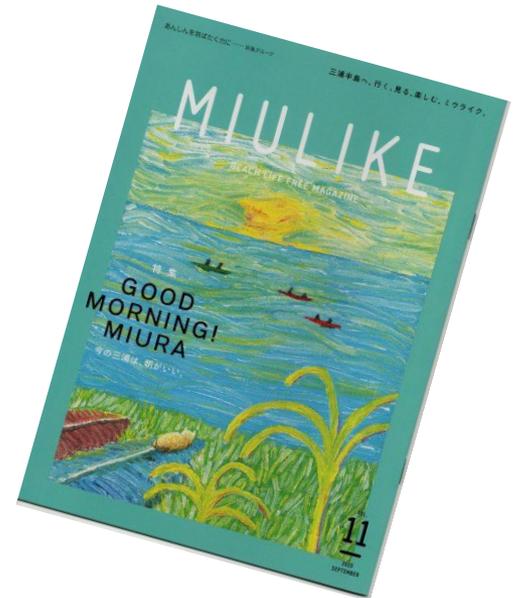
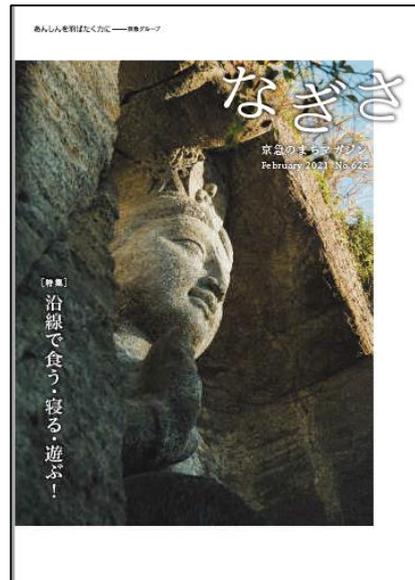
地域メディアを賑やかそう！

紙のメディア

神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙

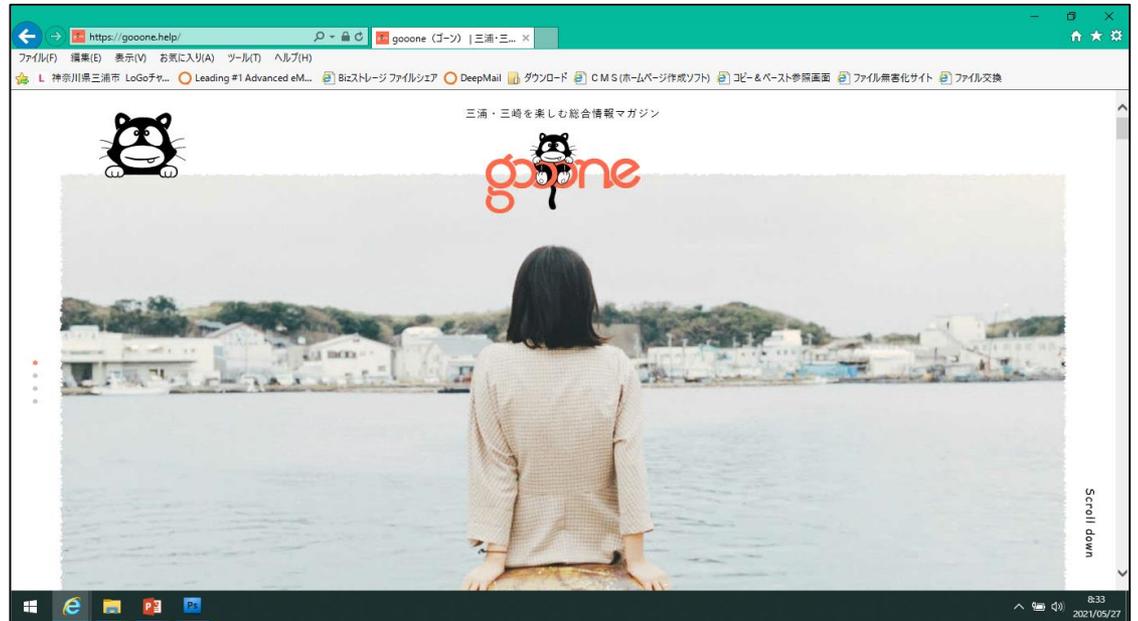
タウンニュース

神奈川
新 THE KANAGAWA 聞



地域メディアを賑やかそう！

ネットメディア



地域メディアを賑やかそう！



壁新聞・パネル展示

地域メディアを賑やかそう！

地域メディアとは、地域に関するいろいろな媒体に載る情報の塊を指します。それを賑やかにしたい！
それはなぜ？

若者をはじめとする、三浦のことが気になっている人達が、本当のみうちの良さを知る機会が増える！

リタイア世代の活躍の仕組みで、地域における自主的な課題解決の取り組み？



市民活動を活性化させたい！
地域資源を活用して市内外へ発信し、
三浦ファンを増やしたい！

例えば、脱「消滅可能性都市」！！

三浦市は定住意識が低い

平成27年度三浦市民アンケート調査では、若年層（16～39歳）の25.4%は転出を考えている。

新型コロナウイルス感染症の影響 下における生活意識・行動の変化に 関する調査(令和2年6月 内閣府)

地方移住の関心について、東京
23区居住の20歳代において、関
心が高まったと答えた人が
35.4%だった。

- ・三浦市の若者は定住意識が低い。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響下では都心の若者は地方移住に関心が高まっている。



市内外の若者を中心に三浦市の本当の良さを知ってもらい、三浦市を好きになってもらうことができたなら！

三浦市の本当の良さって？

ガイドブックやインターネットでは検索できない本当の地域の魅力があるはず！

- 何気ない日常の楽しみ
- あの店の裏メニュー
- おばあちゃんから引き継いだ郷土の味
- この場所から見る夕陽
などなど、生活者しか知りえないモノ
コトたち

※多くの地方都市の移住冊子で語られています。

リタイア世代活躍の仕組みで、地域における自主的な課題解決の取組とは？

市民活動を活性化させたい！
地域資源を活用して市内外へ発信し
三浦ファンを増やしたい！



リタイア世代が地域メディアを活性化させる！

※地域メディア：三浦市に関するあらゆる情報のまとまりを指します。

市民の定住志向(思考)が高まる。
移住者の心に刺さり、関係人口化する。



三浦市を好きになり、三浦市のために自分たちも行動を起こす者が増える。

三浦市民にシビックプライドの 価値観が広まる！

※シビックプライド：都市に対する市民の誇り



三浦市が持続的に市民の力で 元気な街になる。

まちの自慢は変わった？！

その昔は？

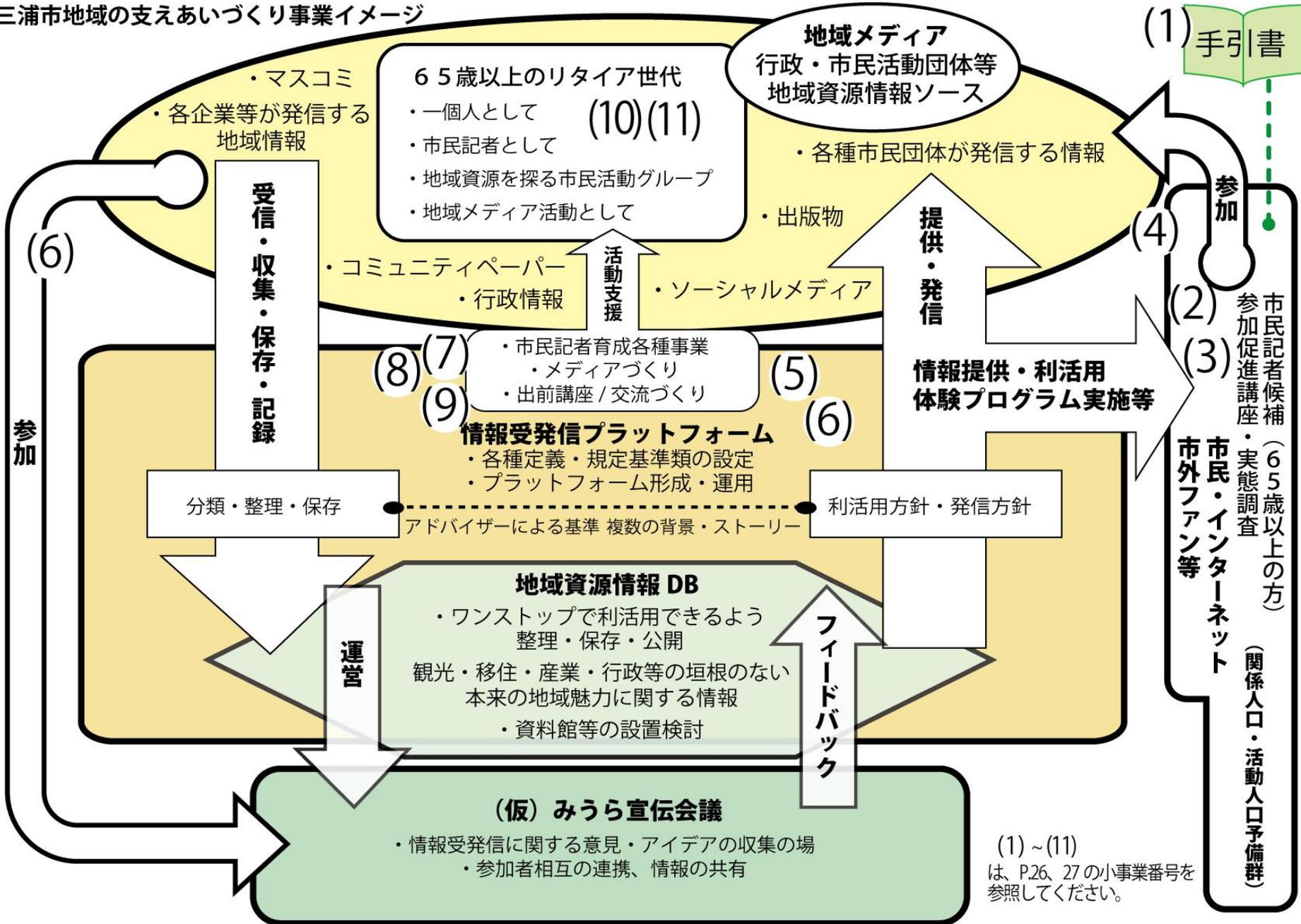
- デパートがある
- 映画館がある
- 流行の商品が買える

まちの自慢は変わった？！

今は？

- 新鮮な野菜が買える
- まちで会話がある
- とっっておきの景色がある

三浦市地域の支えあいづくり事業イメージ



地域記録者
長島文夫さん

LOCAL ACTION
FILE 09



南下浦町上宮田在住の長島文夫さんは、平成2年頃から、上宮田地域の歴史や文化を記録に残す活動を行い、後世の人たちに郷土の過去を知ってもらおうと、13冊に渡る地域記録誌「三浦海岸シリーズ」を手掛けています。

LOCAL ACTION
FILE 10
総合情報マガジン
「goone」



三浦市三崎の出版社アタシ社と、シェアオフィスや古民家の利活用を提案する地域商社「波止場商店」が中心の地元民が主体的に作る、新しい情報マガジンです。

に働きかけます。シビックプライドの存在は「良い関係人口」へと変化させます。そして、私は良い関係人口のことを「活動人口」と称しています。活動人口とは「地域に対する誇りや自負心を持ち、地域づくりに活動する者」です。活動人口の存在は、たとえ人口が減っても、元気で価値ある地域であり続けるかもしれません(図表)。今回の取り組みは活動人口を創出するための第一歩になります。その意味ではとても意義あるものだったと評価できます。

市民活動が地域の力を高めます
地域を活性化するための要諦は「ないものねだりではなく、あるもの探し」です。市民活動は「あるもの探し」が基本となっているため、中長期的には地域は活性化していくはずですが、なお、ここで言う活性化とは貨幣価値では得られない活性化です。プライズレス(Priceless)です。いずれにしましても、市民活動の結集は、市民の力、地域の力を高めていくことになるでしょう。

関係人口から活動人口へ
今日、国は関係人口を推している。関係人口を「長期的な「定住人口」や短期的な「交流人口」でもなるもの」を磨いて付加価値をつけます。①付加価値をつけた「あるもの」に対してターゲットを絞り込みます。②ターゲットに対してプロモーション(販売促進)して売り込んでいく、です。付加価値はターゲットに即したものでなくてはけません。これを着実に進めていけば、貨幣価値に換算できる活性化も実現するでしょう。

良い関係人口に変える「視点が」シビックプライド(Civic Pride)です。シビックプライドは「都市や地域に対する市民の誇り」という意味があります。「シビック」には「権利と義務を持って活動する主体としての市民性」という含意があるそうです。当事者意識に基づく自負心が内包されます。シビックプライドの醸成には、市民活動が一要因となります。関係人口は表面的な活動です。シビックプライドは私たちの心(内面)



TIPS
05

地域資源を集め、発信することの意義



ATTENDAR
牧瀬 稔さん
関東学院大学 法学部
地域創生学科 准教授
専門は、自治体政策学、地域政策、地方自治、行政学であり、近年は「シビックプライド」というキーワードを通じて地方自治体の新しい政策提案されるなど全国でご活躍されています。

東大生が見つけた三浦の資源。それは「ないものねだり」ではなく「あるもの探し」という発想から見出されました。
東大生インターンは何を感じたか?
東大生の提案を一言で表現すると「マイクロツーリズム」でした。マイクロツーリズムとは「住まいから1時間程度で移動できる地元地域での観光」を意味しています。コロナ禍において観光産業が生き残っていく一手段として、星野佳路氏がマイクロツーリズムに着目したと言われています。東大生の提案は、時流に乗った、よい内容でした。

東大生は、インターシップ活動を通して、三浦市の地域資源を見出しました。それを近隣市の住民に売り込むことにより、地域を活性化しようとする提案でした。
三浦市としては、東大生のインターシップ活動を「一過性として終わらせるのではなく、次につなげていくこと」が大事です。そうすることで関係人口から活動人口へとつながっていくでしょう(関係人口と活動人口は後述しています)。
この取り組みは「オープンインベーション」につながっていきます。オープンインベーションとは「地方自治体単独で政策づくりなどに取り組むのではなく、地域住民や民間企業、大学など多様な主体が持つアイデアやサービス、ノウハウなどを組み合わせ、革新的なビジネスモデルや地域活性化につなげる活動」と定義しておきます。

やってみましょう！

やり方は簡単です！

皆さんが地域のことで

好きだなあと考えたこと

懐かしいなあと思いだしたこと

何でも構いません。まずは教えてください。

昔の暮らし

身近な
アート・文化

とっておきの
メニューレシピ

富士山の写真

海辺の景色

季節の花たち

まちの七不思議

我が家のお宝

我が家のお雑煮

自分で
描いたもの

新婚旅行の
エピソード

漬物つくって
ますよ

戦争体験

マイカーの写真

マグロの食べ方

子どもの頃の
遊び

自分で
作ったもの

流行について

わたしの
干物の作り方

わたしの好きな
まちなみ

創業秘話

潜水レポート

まちの歴史

私の先生の話

自然の中の
子どもたち

祭りの話

地域の
植物のこと

ドライブの
思い出

マイコレクション
の話

マグロの
みりん干し作り方

あの店の
あのメニュー

石碑・道祖神

見たテレビ・
映画の話

農業・漁業・
産業の苦労話

昔の道具と
使い方

磯の生物・
昆虫博士



皆さまの身近なお話を、
ぜひお聞かせください!!

さあ！さっそく
参加してみましょう！

意外とカンタン!? 地域の魅力、 投稿方法

投稿方法 01 メモや紙

この景色いいな、我が家の味伝えたい！懐かしい話がある！みんなにも教えてあげたい！
そんな情報を見つけたら、ぜひ、投稿してください。方法は簡単です。メモでも便せん、チラシの裏紙でも大丈夫！

左下の「地域の魅力情報投稿基本項目」を参考に市民交流センター、市各出張所、社会福祉協議会の窓口で投稿できます。

投稿方法 02 市民交流センター

市民交流センターニナイテ開館日にスタッフにお声掛けください。投稿用紙を用意してお待ちしています。

写真撮影や文章編集などスキルアップ講座や情報を各種メディアで活用していくためのコンテンツ作成講座も開催予定です。お一人でも仲間とでも参加できます。ぜひ、市民交流センターニナイテで活動を始めましょう！

投稿方法 03 メール

携帯電話やインターネットが使える方はメールにて情報を投稿していただけます。必要な項目は左下「地域の魅力情報投稿基本項目」を参考にしてください（QRコードでメールが起動します）。

写真はもちろん、動画を送信する方法も用意しています。

e-mail
info@miuracc.org



投稿方法 04 スマホ・SNS

スマートフォンが活用されている方でSNS（ソーシャルネットワークサービス）を利用されている方は、ぜひ、市民交流センターニナイテをフォローしてください。Twitter、Facebook、LINE、Instagramなど。情報を双方向でやり取りできます。詳しくは市民交流センターニナイテホームページにてご確認ください。

ご投稿の際は「#三浦地域の魅力大作戦」を記載してください！

お問合せは
お気軽に
三浦市地域資源情報
プラットフォーム推進協議会事務局
(特) YMC コミュニティサポート
市民交流センターニナイテ内

電話
046-845-9919
FAX
046-845-9229
URL
https://www.miuracc.org/
e-mail
info@miuracc.org

コピーして活用してください

地域の魅力情報投稿基本項目

私の知ってる地域の魅力を投稿します!!

お名前	本名・ニックネーム
連絡先	メール・住所・電話・その他
題名	
いつ	現在・過去（ 年ころ）
場所	
内容	
分野	食べ物・生き物・景色・風景・暮らし・文化・思い出・まち並み・趣味・習慣・道具・活動のこと・人物・店・その他（ ）
資料などあれば	資料・書籍・写真・動画・実物・その他

教えて！投稿に関する知りたいアレコレ Q&A

Q 地域の魅力って…、難しそう。

いいえ、簡単です！
身近な話題がいいのです。あなたしか知りえない話や思い出、好きな事柄を教えてください。

Q 昔の記憶で、不確かな部分もありますが、役に立ちませんか？

細部が不確かでも構いません。そのような断片的な情報も集まってくると貴重な情報になります。ぜひ、投稿してください。

Q 古い写真や雑誌、本などは地域の情報ですか？

とても大事な地域の情報です。お貸しいただければ画像などでお預かりすることができます。できれば思い出、その時感じたことやエピソードも合わせて教えてください。

Q 自由な時間が限られているので、一人で活動したいのです。

お好きな時間に、一人だけでもまちないところを取材していただいたり、風景をカメラで切り取って投稿するなど、あなただけの情報をお知らせください。

Q 動画を公開できたら…、と思うのですが難しいですか？

意外と簡単ですよ！スマートフォンがあればその日から始めることも可能です。今後スキルアップするための動画やSNS（ソーシャルネットワークサービス）などの講座も行います。ぜひ、参加してください。

Q スマホやインターネットが使えませんが参加できますか？

大丈夫です。市民交流センターニナイテが窓口になりますので、紙、メモなどでも参加できます。

Q 文章を書くことが苦手です。

簡潔書きや、メモでも構いません。気にせず投稿してください。また、記事を書いたり、編集することを学ぶ機会を用意しますので、参加をお待ちしています。

Q 足が悪いので、出歩くことができないのですが、参加できますか？

もちろんです！メールやファックスで送ってください。市民交流センターニナイテや各出張所、自治会のネットワークなどでも受け付けるよう準備中です。

Q 地域の歴史のことが知りたいので活動したいと思っています。

ぜひぜひ、今活動している団体など一緒に活動できる仲間を市民交流センターニナイテが紹介します。活動を始めましょう！

Q 個人のお店のことや紹介したい人物のことは？

ぜひぜひ、教えてください。まちな名店あのお店メニュー、まちの名物おじさんの話など、人文資源と呼ばれるもの全般をお待ちしています。なお、公表する際には個人情報に配慮いたします。

コピーして活用してください

やってみましょう！

スキルアップをしよう！

- いろいろな情報を自分でも作りたい！
情報編集能力の向上を目指します！
- 自分で見つけた情報を伝えてみたい！
情報伝達メディアを作ってみましょう！
- 自分の活動を地域の学校などで活用してほしい！
出前講座及び交流事業を実施してみよう！

やってみましょう！

スキルアップをしよう！

○情報編集能力の向上

各界のプロによる講座等スキル向上プログラムの実施（博物学、民俗学、編集者、ライター、カメラマン、映像作家、インスタグラマー、ユーチューバーなど）する。

○情報伝達メディア作成発信事業

収集された情報を参加者により発信する実践を行うもの。壁新聞、フリーペーパー、SNS、プロモーションビデオ作成など

○出前講座及び交流事業の実施

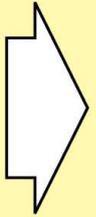
収集された情報を基に参加者が講師となって開催するセミナーや小中学校への出前講座を実施する。また、市民交流センター等を会場に地域資源情報に親しんでもらう機会として展示体験交流会を開催し、多世代との交流を促進する。

三浦市民7月号で
お知らせ予定！

テーマとなる地域資源の定義づけと
魅力の物差し・保存・整理の仕組みづくり

○地域資源情報受発信サポート事業

- (1) 地域情報受発信手引の作成：区長会、老人クラブ連合会、社会福祉協議会等を通じ手引きを配布。ウェブサイト、SNSでの拡散等を行い事業の浸透を図る
- (2) 情報編集能力の向上：興味を誘う講座を行い、受講者が継続的に事業に参加し、魅力ある情報発信を実施する地域メディアとしての活躍を視野に入れたサポートを行う。



ターゲット層の実態を
把握効果的な参加の
呼びかけ!

○地域実態調査及び参加普及事業

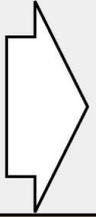
- (3) 地域実態調査：参加普及事業がスムーズに機能するよう、設問等を修正、対象を変えていく等継続して調査を実施する。
- (4) 参加普及事業：今年度も説明会を積極的に開催する。また、既存団体への調査も継続して実施し、対象世代の活動を把握するとともに受け入れ促進を試みる。



情報インフラ
に慣れ親しむ

○情報リテラシー向上事業

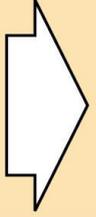
- (10) 地域サポーター育成事業：引き続き、各地区のスマホリーダー養成の講座を行うとともに実践の機会を設けリーダーとしての活動を促進する。
- (11) デジタル機器学習講座事業：市内の団体や通信事業者等と連携し対象世代のリテラシー向上のため講座の実施や啓発等を実施する。



地域で活躍するための
ステージIIプラットフォームづくり

○情報受発信プラットフォーム形成運営事業

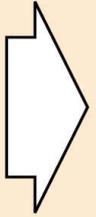
- (5) 情報受発信プラットフォーム形成事業：R2年度に作成したマニュアルに基づき教育教育プログラムの実施、点検を行い事業の円滑な実施に務める。
- (6) 情報受発信プラットフォーム運営事業：情報受発信の実施、アーカイブ事業の実施、連絡調整会議の開催、市民サポーター、運営補助団体の育成、アドバイザーによる事業点検の実施



実際に活躍する
ためのファイル

○地域資源活用実践事業

- (7) 情報伝達メディア作成発信事業：収集された情報を参加者により発信する実践を行うものであり、効果的な地域メディアとして機能していくことを目指す。
- (8) 出前講座及び交流事業の実施：参加者が講師となって開催するセミナーや小中学校への出前講座を実施する。また、地域資源情報に親しんでもらう機会として展示・体験交流会を開催し、多世代との交流を促進する。
- (9) 商品開発：地域の食材や各家庭に伝わる郷土のレシピ等から、商品開発を試みる。また、実際にフィールドに出て、人文資源に触れ合う等地域を体験するツアーの試行



やってみましょう！

今日集まった皆さんで
仲間を作ってみませんか？